

(参考) 審議まとめにおける関係機関の役割

事 項	実施主体		事業実施機関等			国	
	大学等	学協会	研究資金配分機関	NII	JST		
論文のオープンアクセス	(実行)	・グリーンOAの基盤として機関ポジトリを拡充する。	・質の高いOAジャーナルを構築する。	・オープンアクセスに係る実施方針を定め、計画的に取り組み。	・JAIRO Cloudにより大学等における効率的な基盤整備を支援する。	・J-STAGEについて、レビュー誌の発信などを通じて国際的な存在感の向上を図る。	・NII及びJSTの事業への支援を通じて、大学等の活動を支援する。 ・質の高いOAジャーナルの構築を支援する。
	(啓発等)	・オープンアクセスに係る方針を定め公表する。			・SPARC Japanによりオープンアクセスの理解増進を図る。		・NII等の事業を支援する。
エビデンスデータの公開	(データ管理)	・研究者のデータ管理計画の作成と計画に従った管理の実施について支援する。		・申請者に、必要に応じデータ管理計画の提出を求める。			
	(データ基盤の整備)	・データの管理に係る基盤を整備するに当たって、NIIと連携してアカデミッククラウドを構築・活用する。			・アカデミッククラウドの構築を大学等と連携して進める。		・NIIと大学等が連携して進めるアカデミッククラウドの構築を支援する。
	(データの公開)		・公開すべきデータの範囲とその様式について、検討する。	・研究者コミュニティのコンセンサスを踏まえつつ、公開の進め方等について公募要領等で示し、公開を推奨する。			(日本学術会議) ・学協会等の意見をとりまとめ、研究者コミュニティとしてのコンセンサスを形成する。
	(公開手段等)		・複数の学協会が共同してデータジャーナルの構築を始め、研究データに関する新たな取組を行う。	・研究データ公開の取組について、公募要領等で推奨する。	・JST等と連携して、論文に加え、各データベース等に搭載されている研究データの横断的な検索・利活用を可能とする基盤整備を行う。	・データジャーナル出版に係る基盤整備を行う。	・JST及びNIIが行う研究者等の利便性を高めるための基盤整備を支援する。 ・科研費によりデータジャーナルの刊行を支援する。
	(成果の散逸防止)	・論文、研究データの管理に係る規則を定める。 ・論文及び研究データにデジタル識別子を付与し管理する仕組みを確立する。	・著作権ポリシーを整備し、大学等の研究成果散逸等防止のための取組に協力する内容とする。				
	(著作権ポリシー)		・刊行する学術誌に掲載される論文の著作権ポリシーを策定し明示する。 ・円滑な著作権処理を行うためのライセンス体制を構築する。				
	(引用と評価)	・引用されたデータ作成者の貢献を業績として評価する。			・研究データにデジタル識別子を付与するJaLCの活動を推進する。	・研究データにデジタル識別子を付与するJaLCの活動を推進する。	・デジタル識別子の付与に取り組みJaLCの活動を支援する。
	(人材の育成及び確保)	・技術職員、URA及び図書館職員を中心としたデータ管理体制を構築する。 ・データキュレーター等を育成するシステムを検討し推進する。 ・戦略的な人的資源配分を検討し、新たな専門人材の確保に努める。					・複数の大学等が共同して行う人材育成を支援する。

(出典)「学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)」(平成28年2月26日 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会)